

令和元年度果樹茶業研究会 「常緑果樹研究会」 開催要領

1. 趣 旨

近年は特に安心・安全を保証した農産物が望まれることから、GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) が注目され、国内でも GAP 認証による差別化販売が行われつつある。GAP 認証は 2020 年東京オリンピック・パラリンピックで必須となるなど「食の国際化」において無視できなくなっている。しかし、GAP 認証データの取得には多大な労力を要するため、IoT・AI を活用した情報収集の省力化や生産工程のユニバーサル化が急がれている。また、ユニバーサル農業の展開はひろく障がい者の雇用に道を開くものとしても注目される。そこで、全体会議では「安全な果実を安定供給するための次世代型果樹生産」をテーマに、GAP 認証の現状や関連する周辺技術について講演いただくとともに、先行する現場から話題提供いただき、理解を深めたい。

栽培分科会では「普及成果の現在および将来的な利活用」をテーマに、マルドリや隔年交互結実など既に現場へ普及した成果について現状と問題点を紹介いただくとともに、技術の継承や他の技術との組合せ、さらに新たな技術開発などについて総括いただき、今後を展望したい。

2. 日 時

令和元年 8 月 28 日 (水) 13:00~17:00 (全体会議)

8 月 29 日 (木) 9:00~11:50 (栽培分科会)

注 1) 8 月 29 日 (木) には、系統適応性検定試験成績検討会 (常緑果樹) を併行して開催する。なお、系統適応性検定試験成績検討会は非公開で、試験担当者等の関係者のみが出席可能。

注 2) 詳細は別紙 1 の進行予定表のとおり。

3. 場 所

静岡県男女共同参画センター あざれあ <http://www.azarea-navi.jp/>
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵 1 丁目 17-1 TEL:054-255-8440

4. 主 催

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門

5. 内 容

別紙 2 のプログラムを参照のこと。

6. 参集範囲

果樹関係行政機関、国立研究開発法人、公設試験研究機関、学識経験者、カンキツ研究ネットワークを構成する者、カンキツ新技術・新品種研修受講者、JA 等関係者、マスコミ関係者等

7. 出席申込方法

共通出席申込書 (令和元年度常緑果樹研究会・系統適応性検定試験成績検討会) に必要事項を記載し、**令和元年 7 月 26 日 (金) までに (必着)**、電子メールで okitsu-1@naro.affrc.go.jp に送付する (申込書を word または PDF で添付)。

8. 問合せ

下記の出席申込先に電子メールまたは電話で問い合わせる。

〒424-0292 静岡市清水区興津中町 485-6

農研機構果樹茶業研究部門 カンキツ研究拠点

常緑果樹研究会・系適会議事務局

e-mail : okitsu-1@naro.affrc.go.jp TEL : 054-369-7100

別紙1 進行予定表

8月28日

常緑果樹研究会全体会議

13:00-13:15 挨拶等

13:15-16:30 講演「安全な果実を安定供給するための次世代型果樹生産」
(15:15-15:30 休憩)

16:30-17:00 総合討論

17:00 閉会

8月29日

常緑果樹研究会栽培分科会

9:00-9:10 挨拶等

9:10-11:30 「普及成果の現在および将来的な利活用」

11:30-11:50 総合討論

11:50 閉会

系統適応性検定試験成績検討会(常緑果樹)

9:00-9:10 挨拶等

9:10-10:40 カンキツ系適試験成績検討

10:40-10:50 休憩

10:50-12:20 ビワ系適試験成績検討

12:20-12:30 その他

12:30 閉会

別紙2 プログラム

8月28日(水)午後(13:00~17:00)

=全体会議=

~「安全な果実を安定供給するための次世代型果樹生産」~

座長：農研機構果樹茶業研究部門 塩谷 浩

1. GAP 認証の取得を社員教育等に活用！震災から復興した果樹園経営
(有)まるせい果樹園 佐藤ゆきえ
2. 果樹栽培におけるデータ活用と GAP への取り組み
ウォーターセル(株) 藤原拓真
3. ICT を用いた先進技術と地域の力による獣害対策の実例
兵庫県立大学自然・環境科学研究所 山端直人
4. 果樹栽培における無人航空機(ドローン)の活用
静岡県農林技術研究所果樹研究センター 佐藤優賛
5. GAP=ユニバーサル農業~障がい者雇用から見てきた農業活性化のヒント~
京丸園(株) 鈴木厚志
6. ブルーベリー果実の周年収穫技術の開発と普及
東京農工大学農学部生物生産学科 荻原 勲
7. 総合討論
座長：農研機構果樹茶業研究部門 塩谷 浩
パネラー：話題提供者

8月29日(木)午前(9:00~11:50)

=栽培分科会=

~「普及成果の現在および将来的な利活用」~

座長：農研機構果樹茶業研究部門 深町 浩

1. マルドリ方式の普及の問題点と今後
農研機構西日本農業研究センター 星 典宏
2. ジベレリン利用の今までとこれから
農研機構果樹茶研究部門 佐藤景子
3. 隔年交互結実栽培の普及と産地継承への活動
山口県農林総合技術センター農業技術部柑きつ振興センター
岡崎芳夫

4. 摘果方法の違いが隔年結果是正と高品質果実生産に及ぼす影響

愛媛県農林水産研究所果樹研究センターみかん研究所

藤原文孝

5. 冷風貯蔵庫と青色 LED 光による晩生ウンシュウミカンの貯蔵性向上

静岡県農林技術研究所果樹研究センター 山家一哲

6. 総合討論

座長： 農研機構果樹茶業研究部門 深町 浩

パネラー： 話題提供者